

あーかす

米子医療センターマガジン #23
January 2019(平成31年1月号)

巻頭言 新年のごあいさつ

特集

米子医療センター活動報告

市民公開講座

がん医療講演会を終えて

米子医療センターがん看護公開セミナー特別講演

淀川キリスト教病院 池永昌之先生の御講演

平成30年度 西部医師会

米子医療センター連絡協議会

実りある意見交換

パリ見聞録～欧州呼吸器学会 (ERS) 2018 に参加して～

在宅ケアにおける感染対策研修会を開催して

国立病院総合医学会報告

結石破砕室移転のお知らせ

色のレシピ vol.14

Enjoy! 学生 LIFE

米子医療センター互助会忘年会



■ contents ■

- 03 巻頭言 新年のごあいさつ
- 04 特集／米子医療センター活動報告
市民公開講座 がん医療講演会を終えて
- 05 米子医療センターがん看護公開セミナー特別講演
淀川キリスト教病院 池永昌之先生の御講演
- 06 平成30年度 西部医師会 米子医療センター連絡協議会
実りある意見交換
- 08 パリ見聞録～欧州呼吸器学会（ERS）2018に参加して～
- 10 在宅ケアにおける感染対策研修会を開催して
- 11 国立病院総合医学会報告
- 12 結石破碎室移転のお知らせ
- 12 色のレシピ vol.14
- 13 Enjoy! 学生 LIFE
- 14 米子医療センター互助会忘年会



米子医療センターの
ロゴマーク

患者さまと職員が向き合った姿で、患者さま中心の医療提供とYONAGO(米子)の「Y」、MEDICAL(医療)の「M」、CENTER(センター)の「C」の文字を、まごころ、信頼、安心、良質の医療をイメージする「ハート」に組み合わせ「米子医療センター」の明るく元気な姿を表しています。

あーかす

あーかす(Arcus)とはラテン語で「虹」を意味し、英語のArc(弓、橋)+Us(私たち)で「私たちが地域の架け橋になる」という意志を込めてタイトルとしました。私たちの持ついろいろな表情を、地域の方々や医療関係者に広く知って頂き、絆を更に深める情報を掲載してまいります。

新年のごあいさつ

院長 長谷川 純一

新年明けましておめでとうございます。皆様健やかに平成最後の新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年1月から東京始め各地の大雪で、社会生活に大きな影響がありました。7月には西日本豪雨で河川氾濫や土砂災害など甚大な人的、物的被害が生じ、まだ復旧できていないうちに台風21号や24号が襲ってきました。驚くことに関西国際空港が冠水し、孤立するという想定外の出来事もありました。米子医療センターでは感謝祭を中止したり、がんフォーラムを延期する程度で収まりましたが、被害に遭われた方々へは心よりお見舞い申し上げます。また、大阪の地震ではブロック塀の倒壊が全国の同様の塀の安全点検のきっかけとなり、北海道の地震では全道の停電という未曾有の事態が生まれました。さらに8月には米子で38度を記録したばかりか、体温に近い外気温が日常的となり、学校のエアコン設置が急がれました。このような天変地異が続き、原発の安全性さえ完全ではないことを目の当たりにした私たちは、人々の健康に寄与する使命を果たすためにも、改めて日頃からの危機管理の大切さを自覚すべきであり、気を引き締めたいと思います。

一方、医療に関係するめでたい出来事として、本庶佑先生のノーベル医学生理学賞の受賞がありました。先生の研究成

果の先に生まれたニボルマブは、画期的新薬として、当初は悪性黒色腫に保険適応となったものですが、その後非小細胞肺癌、腎細胞がん、ホジキンリンパ腫、頭頸部がん、胃がん、悪性中皮腫と適応が拡大され、その高価格のゆえに問題となった薬でした。しかしこの薬とて皆に著効を示す訳ではなく、プレシジョン・メディスンといわれるように、個々の疾患、病態等々に合わせた治療への移行が今後益々進んでいくものと思われま

す。当院はこれまで血液を含むがん医療と腎医療に経営資源を集中させ、当地での信頼を獲得してきましたが、超高齢社会の現在、これらの患者さんはがんや腎疾患のみならず、複数の生活習慣病や高齢者特有の疾患を抱えておられます。地域医療支援病院として、そのような病態にも対応できる相応の体制を整備していく必要があると思っています。また、働き方改革も単に残業時間の短縮と捉えるのではなく、全てのスタッフがポジティブな気持ちで協力し合い、チームとして高いパフォーマンスを発揮できるよう環境改善・意識改革に努めたいと思います。それらを通して、今後ともこの医療圏になくしてはならない急性期病院として、頼りにされる存在でありたいと思います。

今年も皆様のご指導・ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



市民公開講座

平成30年11月24日土曜日 米子コンベンションセンターにおいて、米子医療センター市民公開講座、がん医療講演会を開催しました。今年で12回目となる講演会には、タレントの向井亜紀さんを講師にお迎えし、『がんと向き合う～自分の身体と時間を大切に～』をテーマに講演をしていただきました。

がん医療講演会を終えて

地域医療連携室 がん相談看護師
遠藤 萌

講演は、「今日はみなさんに、講演を聞いて10年長生きしてもらいます」という明るい声で始まりました。

向井さんは、2000年、35歳の時に子宮頸がんと診断されました。29歳で結婚し、35歳で妊娠、妊婦検診時に子宮頸がんがわかり子宮全摘手術を受けることとなりました。子どもを失った悲しみからひどいつつ状態となったこと、食事もとれず免疫力が落ち感染症にかかったこと、そのような精神状態の中でも抗がん剤治療・放射線治療を受け、計14回の手術を経験されたことを話していただきました。そんな中、どのようにしてうつ状態から抜け出し前向きに病気や治療と向き合うようになったのか。それは、子宮体がん治療を受ける若いママさんのお話を聞いたからだそうです。子供の小学校の入学式へ出席することを目標に治療を頑張るママさんの話を主治医から聞き、「これじゃダメだ!」と思ったそうです。未来に暗いイメージしか持てていなかった向井さんは、なりたい未来をイメージするようになり、小さな目標を達成していくごとに、心がそして体も一緒に回復に向かわれたそうです。「胸のスクリーンにどんな映像を映すかで、まったく違う自分になれる」「心と身体は密着している。だからどちらも大切にしないといけない」向井さんは、イメージすることの重要性を講演会中に何度も話されていました。なりたい未来をイメージすることが、どれほど身体に影響をするのか、イメージを実現することで、身体全体

が達成感を感じるなど自分の実体験をもとに心と身体に起こったこととお話していただきました。

「人はいつか必ず死ぬと知りながら生きている。死ぬ時までには何をしよう、自分が生きる意味を知りたくて頑張る、どんなふうに生きたいと思うか、それは神様からの宿題なのです」

大病を経て、向井さんは米国で代理出産を行い双子の男児に恵まれました。また、実母が、がんで予後3カ月と診断された時には、自身の経験から実母のやりたいことを引き出して実践されたそうです。実母と、故郷の病院へ移り4年半を共に生きることができた嬉しそうに語られました。

向井さんは最後に、大切なことは「早期発見と患者さんの気の持ちよう」だと話されました。がんと言われたらすべてあきらめなくちゃいけない、そんなネガティブな気持ちの中から1つでもいいから希望を持って、胸のスクリーンに映したらきっと未来は変わる。実体験を通して、日々の気持ちの持ちよう、どんなふうに生きるかを考えイメージすることの大切さを語っていただきました。

笑いあり、涙ありの講演会は、米子医療センター附属看護学校の学生を含む約150名の参加があり盛況で閉会しました。笑顔で会場を出ていく皆様と、有意義な時間を過ごすことができたのではないかと思います。





米子医療センターがん看護公開セミナー特別講演 淀川キリスト教病院 池永昌之先生の御講演

緩和ケア内科医長 松波 馨士



平成30年11月16日(金)に米子医療連携センター1階くずもホールにおいて、がん看護公開セミナー特別講演が開催されました。淀川キリスト教病院緩和医療内科主任部長の池永昌之先生に『緩和ケアで大切にしていること』との演題名で講演して頂きました。池永昌之先生は私が淀川キリスト教病院で研修させて頂いた時の指導医であり、現在の日本の緩和ケアを牽引されている非常に高名な先生です。

講演会には院内外から108名の聴講者が集まり大盛況となりました。院外からは鳥取市、倉吉市、境港市、日野郡、西伯郡などの県内全域から、また島根県松江市からも多数参加がありました。職種では看護師を中心に、医師、薬剤師、社会福祉士、理学療法士、管理栄養士など多くの分野から参加して頂きました。

講演会はまず、スピリチュアルペインについて様々な角度からの説明で始まり、『緩和ケアで大切にしていること』として4つのお話をして頂きました。

1つ目は『相手がわかってもらえた!と思える言葉かけをすること』として、共感のスキルが重要になる場合もあるとし、「反映」「正当化」「尊重」の具体的な各スキルについて紹介されました。またその中で現代医療のトピックであるACP(Advance Care Planning)についても触れられました。

2つ目は『同じつらさをもった限りある存在であることを認識すること』について、Peter Kayeの提唱する7つの考え方「そばに居ること」「傾聴すること」「正直に接すること」「率直になること」「柔軟性を持つこと」「受容すること」「立証すること」に従って説明されました。その中で私は特に『受け身の踏み込み』という、傾聴するためには、時には一歩踏み込んで苦悩を明らかにする勇気が大切であるという話に感銘を受けました。

3つ目の『つらい出来事の中にも何か意味や価値があることを信じること』では、死という事実をネガティブに捉えるかポジティブに捉えるかといった、柏木哲夫先生(淀川キリスト教病院で日本初のホスピスを始めた)のお話や、東日本大震災によるPost Traumatic Growth(PTG)について紹介されました。緩和ケアは、患者さんの死によって一方的に終了するが、大切な人であればあるほど様々な後悔の念が残るものであること、しかしそれは残された者の宿命でありいわば「ゴールのないケア」であるというお話では、我々緩和ケアや終末期ケアに従事するスタッフの日々の喪失感について、幾分か正当化して頂いた気がしました。

4つ目の『弱っている方の中に、自分自身の生きる意味や価値を見つけること』では、Mother Teresaの言葉「大切なのはどれだけたくさんのかををしたかではなく、どれだけ心をこめたかです」「人をケアするという職業を、仕事として選んだのではなく、生き方として選んだのだと思いなさい」という言葉や、「ケアの本質(Milton Mayeroff著)」から、他者をケアするということは、最も深い意味において、他者の成長を援助することであり…その結果として私自身の自己実現を達成することであるというお話を紹介されました。

そして『ホスピスケアで大切なこと』として沼野尚美先生(元淀川キリスト教病院チャプレン)が仰っていた①忙しそうに見えないようにすること②適度な緊張感を持ち続けること③上手に既成概念(マニュアル)を破ること、といったやや訓示的なお言葉も頂きました。

今回参加して頂いた方の背景や職種は様々でしたが、池永昌之先生は全ての人の心に訴えかけられ、明日からのそれぞれの業務や生活に大いに役立つお話を頂けたと思います。



実りある意見交換

統括診療部長 南崎 剛

今年は全国各地に豪雨、地震、大型台風による災害に加えて夏場の猛暑ありと未曾有の日々が続いています。さらに、週末には大型の台風24号の接近に伴う大雨への警戒が必要となりました。9月27日(木)に、ANAクラウンプラザホテル米子で恒例の西部医師会との連絡協議会を開催しました。今年も107名と多くの出席者(西部医師会51名、大学8名、当院48名)を賜り、厚く御礼申し上げます。



6月に西部医師会会長に就任されました根津勝先生と当院の長谷川純一院長の挨拶で協議会を開始しました。



議事では、昨年10月に鳥取大学機能病態内科学から赴任されました原田賢一診療部長から本年導入されました超音波内視鏡について講演されました。超音波内視鏡は、超音波探触子を内視鏡先端に備え付けた内視鏡スコープで、胃など消化管内腔から周囲臓器及び消化管壁を観察することができること、胆膵領域の詳細な観察はもちろん、腫大した縦隔や腹腔内リンパ節、消化管粘膜下病変などの検査も可能なこと、また観察のみではなく、超音波内視鏡下穿刺吸引生検(EUS-FNA)により病理学的診断をつけることができることが最大の特徴であることを話され、また、EUS-FNAを応用してドレナージや薬液注入など治療も行うことができることを利点として挙げられました。



次いで、松波馨士緩和ケア内科医長から緩和ケア病棟の紹介、緩和ケア病棟への入院方法、入棟判定基準、緩和ケア病棟でできる処置とできない処置を、トピックスとしてアドバンスケアプランニングについて説明されました。緩和ケアは、がんと診断がついた時点から開始すべきであることを強調され、市民、医療者への啓蒙と同時に他医療機関との連携に努めたいと今後の抱負を述べられました。



最後に長谷川院長が、平成30年1月に完成しました米子医療連携センターをスライドで紹介されました。



懇親会は、山崎大輔西部医師会参与より西部医師会の連絡協議会新参加者の紹介と大学医師、スタッフの紹介があり、当院からも新任医師と転任スタッフの紹介を私が行い、安達敏明西部医師会副会長の乾杯で宴を開始しました。

今年も懇親の場を長く持つことができ、より多くの意見交換ができたのではないかと思います。最後に恒例の杉谷篤副院長による1本締めで終宴となりました。



お忙しい中ご出席いただきました西部医師会の皆様、鳥取大学医学部附属病院をはじめとする各病院の皆様、さらに当院のスタッフには心より感謝申し上げます。

パリ見聞録

～欧州呼吸器学会(ERS)2018に参加して～

9月14日(金)～9月20日(木)にフランス・パリで開催されました欧州呼吸器学会(ERS)に参加してきました。13世紀にマルコポーロが日本を「黄金の国」と西洋に広めた書物「東方見聞録」になぞられて、パリでの珍道中をお伝えします。



診療部長 富田 桂公

◆旅立ち

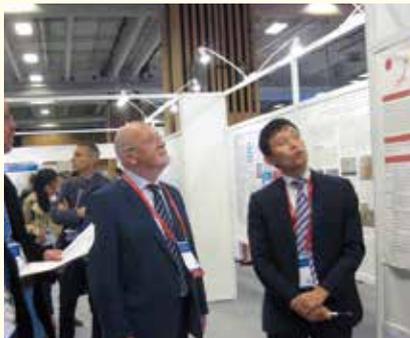
9月14日に呼吸器内科・唐下(とうげ)先生とともに羽田11時発の便でパリに旅立ちました。パリ時間は、「日出(い)ずる国(Land of the Rising Sun)」である日本より7時間遅れています。パリ時間の午後5時(日本時間の日付が変わった午前0時)、12時間かけてパリ・ドゴール空港に到着しました。パリの気温は26℃、日本より湿度が低いためか、すがすがしく感じられました。

ヨーロッパでは、サマータイムを導入していることもあり、夕方遅くまで、日が照っており、パリジャン(フランス男性)/パリジェヌ(フランス女性)は仕事が終わってからのアウトドアを堪能していました。実際、日本と比べ、パリの日の入りは日本より約2時間遅く(日本の日の出時間:午前5時30分、日本の日の入り時間:午後5時40分、パリの日の出時間:午前7時30分、パリの日の入り時間:午後7時40分)、私たちも、昼過ぎまで学会に参加し、その後、美術館巡り、パリ観光しました。パリの街並みは、東京の山手線の内側の広さとほぼ同じで、観光地がコンパクトにまとまっています。街の景観は、「全体的保護の為の紡錘体」と呼ばれる規制に従い、下から見上げた時、建物の高さが並行になっており、「ヨーロッパの京都」のように落ち着いた、大人の街といった風格です。パリの街には、プラタナスとマロニエ(栃の木の種類)の並木が立ち並んでいます。パリ

旅行中、気温30℃の日もありましたが、マロニエは紅葉に染まり、一部、落葉しており、概観は初秋の様相でした。

◆パリ市内観光

パリ市内観光では、日本では見られないものが多々見られます。まず、カード社会が徹底しています。街中には飲料水、お菓子を販売する自動販売機は見られませんが、地下鉄の構内にある自動販売機では、コインだけではなく、カードで購入できます。当然、お店での買い物、地下鉄での切符購入、ピストロ(伝統的なフランス料理を普段着で食せる小さな料理店)での支払い等々でも、カード支払いが主流です。また、タッチパネルでの購入も進んでいます。地下鉄の切符購入だけではなく、マクドナルド(ビールも飲めます)でも、店に入ると、等身大の大きなタッチパネルで商品を選びます。文化のある街ながら、新しいものを取り込んで進化している感じです。また、道路は幅が狭いためか、車(タクシー)での移動には時間がかかります。そのため、バイクに乗っているパリジャンが多くみられました。また、日本でも90年代後半にブームが巻き起こった、地面を蹴って進むハンドル付きの乗物キックスケーター(昔はキックボードと呼んでいました)を走らせる若者が多くみられました。このキックスケーターも進化しており、足でこいで自力で進むのではなく、電動キックスケーターでモーターで進むもの



でした。実は、使用には運転免許の携帯とヘルメットの着用が必須とのことですが、皆さん、ヘルメットをせずに、爽快に車の間を走らせていました。さらにこの電動キックスケーターの他にも、セヌ川の河辺を走る自転車もシェアリングサービスが進んでおり、24時間共同利用でき、駐輪場間で乗り捨てできるサービスが行われていました。パリはシェアリングエコノミー先進都市とのことでした。2020年の東京オリンピックに向けて日本が真似たほうがいいものひとつです。また、街の散策の中、パリ市内の普通のスーパーに立ち寄ってみました。ワイン、チーズが棚に豊富に陳列してあるのに比べ、新鮮な魚介類が全くおいていませんでした。パリは内陸に位置し、第二次世界大戦で有名なノルマンディーまで、パリから370km、東京と名古屋の距離があるとのこと。魚がパリの食卓には流通していないのに、ピストロではおいしいお魚料理が食べられるのはとても不思議でした。

◆フランス

フランスは「文化大国」で、パリには、57の美術館があるとのこと。今回、ルーヴル美術館、オルセー美術館、オランジュリー美術館に行き、本物の美術品を鑑賞してきました。ルーヴル美術館は、質・量ともに世界最大級の美術館と評されるだけあり、任天堂製の美術館ガイドを借りてお目当ての絵画を探しまくりましたが、探し当てるのに時間がかかりました。1500年代にレオナルド・ダ・ヴィンチが描いた「モナ・リザ」、17世紀後半のオランダの画家、ヨハネス・フェルメールが描いた「レースを編む女」等々を鑑賞しました。中世に欧州で流行したペスト菌感染（以前はネズミが媒介したとされていましたが、最近の研究ではノミが媒介したとされています）による黒死病により人口の3分の1から2分の1が亡くなったとされている時期に描かれた作品だけあり、とても暗い画風で、イエスの生誕、イエスの処刑を描いた作品が多数見られました。オルセー美術館は、

セヌ川沿いにあり、元は駅舎で改築された美術館だけあり、建物自体、美しい美術館でした。美術館の側面には大きな時計があり、建物の中から、この時計からパリの街並みをみることができ、作品は、マネ、ドガ、モネ、ルノワール、ゴッホなど印象派の絵画が展示されていました。印象派の画風は、19世紀を中心に描かれたものであり、光を感じられ、色彩豊かで明るい絵画です。また、オランジュリー美術館は、1900年前後にクロード・モネが描いた巨大な連作「睡蓮（すいれん）」がある美術館です。美術館で鑑賞できる「睡蓮」は1枚、横10m、縦2mの絵が合計8枚、楕円形の4部屋に分かれ、天井から自然光を取り入れており、落ち着いた雰囲気鑑賞することができます。「睡蓮」はハス（蓮）と同じものかと思っていましたが、「睡蓮」は、昼間に花が咲き、夜間に花が閉じて、それを3日繰り返すのが特徴とされています。また、ハスは、水面の上に茎が伸びており、その上に花を咲かすことより、水面（みなも）に浮かんでいるように見える「睡蓮」と見分けることができます。今回鑑賞したモネが描いた「睡蓮」の花は確かに、水の上に花が浮いていました。今回の鑑賞で新たな発見がありました。パリ観光で疲れ、椅子にすわり、ボーとして「睡蓮」を眺めていたら、急に、水面より睡蓮の花が浮いて立体的に見えてきました。油絵は、何層にも色を重ねて描いていることより、両目をよせて裸眼立体視をすると3Dのように絵画が見えたものと考えています。絵画鑑賞の時には、試してみてください。

パリの気候・文化・名所旧跡について見聞したことを中心にお話しました。日本の歴史、日本の荒れ狂う風土に慣れ親しんだ日本人である私が、海外にでると、日本のよさと共に、諸外国に取り残されていっているという複雑に気持ちに襲われます。日本もよき文化を残しながら、換えるところは換えていかないと、時代の流れに残されてしまうとひしひしと感じた学会旅行でした。それでは、「オルヴォワール Au revoir」（またお逢いしましょう）。



在宅ケアにおける 感染対策研修会を 開催して

感染対策相談係長 萩 幹

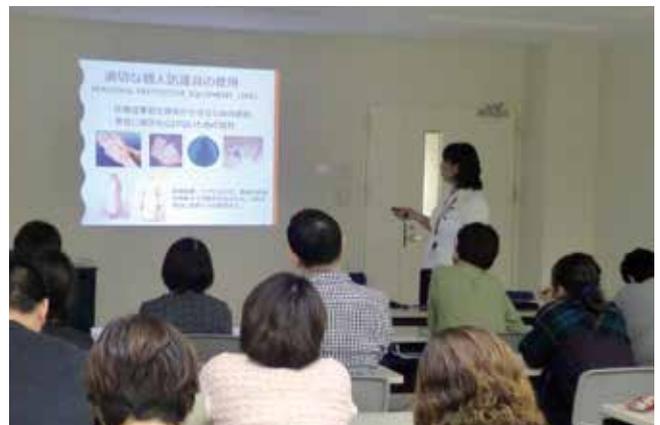
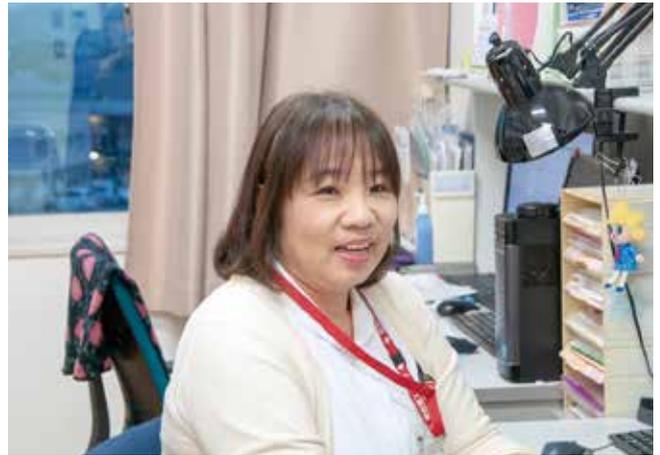
10月24日(水曜日)18:00~19:00「在宅ケアと感染予防～うつさないうつらないために必要なこと～」と題し、地域の医療従事者を対象に在宅実施研修を開催しました。

近年、患者さんの療養環境は、病院等医療施設にとどまらず、高齢者施設、居宅等へと拡大しています。在院日数の短縮や医療の高度化により、医療処置(中心静脈カテーテル、尿道留置カテーテル、ストーマ、創傷管理等)が居宅でも行われるようになり、また、MRSA、ESBLなどの感染症を持ったまま、自宅や介護施設へ転院となるケースも増加しています。医療従事者は、病院でも地域においても感染防止の基本となる手指衛生の他、防護具を適切に使用することで、他の利用者へと伝播させないよう注意しなければなりません。

研修当日は、院内から地域医療連携スタッフ、院外からは地域医療福祉施設に従事している訪問看護師、ソーシャルワーカー、ケアマネ、看護師、施設管理の方など30名の方の参加がありました。研修内容は、在宅ケアにおける感染対策の基本についての講義と演習を行いました。演習では、日常業務の中で多い、おむつ交換時の排泄物の取り扱いについて、参加者に視覚的に「感染伝播」を目で理解して頂けるように、蛍光クリームとブラックライトを用いロールプレイ研修を行いました。光る(汚染)箇所を確認しながら手指衛生、適切に手袋交換を行うことの大切についてポイントを伝えていきました。研修後のアンケートでは、「実技がとても分かりやすかった」「手袋交換のタイミング勉強になりました」「感染予防の必要性、しっかり心に残りました」「自施設のマニュアルが作れるようにしたい」等多くの良い意見や感想を頂くことができました。

一方で、ESBLの患者さんが地域、施設でも増えてきている中で、標準予防策で良いのか実際どのように具体的に対応するのか、施設で悩まれていることが分かりました。

耐性菌検出患者等、転院の時点でまだ積極的な感染対策が必要な場合、具体的にどのようにすればよいのか退院前カンファレンスへ参加し、感染に係る情報提供を行っていきたいと考えます。



国立病院総合医学会報告



理学療法士
西山 裕貴

11月9・10日に神戸市で開催された第72回国立病院総合医学会に参加させていただきました。昨年に引き続き、2回目の参加で、今回は「当院における肺炎患者の臨床傾向とリハビリテーション効果に影響する因子の検討」という内容でポスター発表を行いました。今回の発表は、医師の先生方の中での発表だったため緊張しましたが、質疑応答でのディスカッションや発表後にアドバイスをいただいたことで、今後の課題が明確になりました。また、ご協力いただいた皆様のご指導により、ベスト

ポスター賞をいただくこともできました。これを励みに今後の臨床研究により一層、取り組んでいきたいと思っております。

今回発表した研究では、入院後早期にリハビリ介入すること、入院後早期に食事を開始すること、栄養状態が高いことなどが入院中の日常生活動作改善に有利である可能性が示されました。肺炎リハビリに関する研究は少なく、一定の見解が得られていないのが現状です。今後も研究を継続していき、患者さん、地域の皆様に貢献できるよう頑張ります。



6階看護師
持田 菜美子

平成30年11月9日、第72回国立病院総合医学会にポスター発表のため参加致しました。6階病棟は整形外科病棟であり、例年、インシデントの中で転倒転落が占める割合が多い現状がありました。看護師個人のアセスメント能力や危険意識の向上を目的にベッドサイドでのKYT（危険予知トレーニング）を導入し、医療安全の取り組みとして今回の機会に発表をさせていただきました。

他施設での転倒転落に対する取り組み発表を聞き、今後の転倒転落予防策として参考になる取り組みがたくさんあったため、スタッフと共有したいと思います。

私は、院内での取り組み発表や研修等での発表をしたことはありましたが、院外での発表は今回が初めてで、とてもいい経験をさせていただきました。



初期臨床研修医
松田 梨沙

この度は11月9日、10日の2日間にわたり開催された国立病院総合医学会に参加致しました。私はこのような大きな学会に参加し発表することは初めてだったので、楽しみに思う反面、不安に思う気持ちもありました。

指導医の先生からせっかくなら英語で発表してみないかということ応募してみたところ、英語での口演発表をする機会を得ることができました。スライドや原稿の作成にあたっては指導医の先生に何度も確認していただき、原稿を読む練習

を重ね、当日に臨みました。

発表会場は想像していたよりも緊張感に包まれており、私もその波にのまれそうになりましたが、学会に参加された先生方や研修医の仲間が大勢見に来てくださって、とても心強く、何とか無事に発表を終えることができました。

同じフォーラムで発表した他病院の研修医の英語での質疑応答を卒なくこなす様を見て、レベルの高さも知ることができました。

結石破碎室移転のお知らせ



内視鏡室拡張工事に伴い、11月2日に2階腎センター内腎バンク室改修工事が予定どおり完了し、11月5日に結石破碎機を1階から2階に移動させました。ところが、移動の影響(衝撃?)か、透視用X線が出ない障害が発生し、部品調達に約10日を要し(フランスからの航空便で取り寄せ)てしまいましたが、11月21日に無事、市の医療法検査が終わり、約1ヶ月の休止期間を経て11月28日から2階腎センター内結石破碎室にて、「体外衝撃波腎・尿管結石破碎術」が再開の運びとなりました。

工事、移設期間中、騒音、断水等でご迷惑をお掛けしましたが、皆様にご協力いただきありがとうございました。

○体外衝撃波結石破碎装置のご紹介

体外衝撃波腎・尿管結石破碎術とは、尿路結石(腎臓から尿管・膀胱・尿道)に対し外科的手術をせず、体外から衝撃波を当て、他の臓器を傷つけることなく、結石のみを細かく破碎する治療方法です。

機器名/ソノリス アイムーブ (SONOLITH I-MOVE)

メーカー/エダップテクノメド(株)(本社フランス)

導入年月/平成29年11月

特徴/全国の大学、病院等50医療機関で採用され、エダップ社特許技術である「電気伝導方式技術」「自動圧力制御システム」により正確で安定したパワーの衝撃波を発生することができ、安全で快適な治療が行えます。



色のレシピ Vol.14

米子医療センターの1階から8階までのホスピタルアートを描いていただいた稲田さんのコラム。

ほとんどの方がレシピと言えば料理の調理法だと思うかもしれませんが、もう少し深めると“物事の秘訣”という意味に辿りつきます。色にも多くのレシピがあります。日々の暮らしに役立つシンプルレシピをご紹介しますと思います。

【色は生きもの】色彩プロデューサー 稲田 恵子



色の布を次々に首に当て、似合う、似合わない色を探し出すパーソナルカラー診断は、今も現役であり色の仕事の王道ではないかと思えます。

30年前、習ったばかりのおぼつかない技術でなんと数人を診断(???)したことがあります。しかし、この作業がどうやっても自分に不都合であると判断し、異なる色の仕事を探し作っていこうと決めたのがホスピタルアートでした。

その道のりは、色から離れることはなかったものの、迷い道をくねくねしながらも自分の流儀を作ったという感が今はあります。

しかし“色の仕事”をしていると必ず聞かれることは“私にはどんな色が似合いますか?”です。

色は迷い出すとキリがなく、いつも同じ

色で落ち着くことになり、誰かに決めてもらいたいと思うもの。そういう時には、“直感で良いですか?”という断りを入れて、一つの色を提案することになっています。受けた色をどうされるかは、その人次第なのです。

もう10年ほど前に参加者が150人という大きな企業の研修会に講師として行った時、質問コーナーになったとたんが一番前列に座っていた若者が、さっと手を挙げ“入社して6年になるけれど、だれも僕に声をかけてくれない。声をかけてくれる色はありますか?”と問いかけてきた。

同じ職場ということもあり、ちょっと場内がざわつき始めた。“あります。”と答えたことで少し静まった気がしたので覚えてます。

“オレンジ色。…命を表す唯一の色、派手で目につきやすい、人を助ける色。そして一人でにぎやかな気分してくれる色。身につけたからと言って急に声がかかるわけではない。まずは、靴下、ハンカチなどの小物で、目立たずこの色の特質を引き寄せ、自身の楽しい雰囲気づくりからスタートしませんか?”のようなことを伝えたいと思います。今、彼は中堅社員として、あの場所で働いているのかどうかかわからないが、あの手を挙げた時の勇気と、色を味方につけてくれたらどうかと思ひ浮かべることが時折あります。

好き、嫌い、似合う、似合わない、どんな色も接し方次第で、あなたを魅力的に演出する生き物なのです。

宣誓式を終えて

私たち52回生は、「共存共栄」というテーマを胸に宣誓式に取り組みました。初めは何をしたらいいのかわからず、上手いかないことが多かったです。しかし、準備をしていく中でクラスの人々と意見を出し合い、ひとつの目標について考えることができました。準備にはたくさんの時間がかかり、自分たちの思い描くような式にできるのか不安でしたが、クラスの人々の協力があり、自分たちの心に残る式になったと思います。また、自分自身を振り返ることができる大切な時間となりました。入学してからこの7か月間多くの行事をクラスの人々で協力して行ってきました。この宣誓式をひとつの節目として自分自身を振り返り、自分たちがなりたい看護師像を改めて思い描くことができました。これからの自分たちのモチベーションになったと思います。また、今まで以上に団結力を深めることができました。これからの実習に向けて、今までより一層責任感を持つ必要があると感じました。

宣誓式を通して、自分の意見や考えを相手に伝える力が重要だと改めて感じました。ひとりひとりの意見や考えを相手に伝え、クラス全体で共有しあうことでより良いものになると感じたからです。

困ったとき、悩んだとき、くじけそうになったとき、一度自分自身を振り返ることを大切にしたいです。ひとりでは乗り越えられないことも41人で乗り越えていけるよう励ましあい、お互いを高めあいながら日々成長していきたいです。また、自分たちが思い描いている看護師になれるよう、宣誓式での誓いのことを胸に、努力し続けます。41人との出会い、教えて下さる先生方、指導して下さる看護師さん、患者さんとの出会いを大切に、日々の学びを次に繋げこれからも頑張っていきます。

52回生(1年生)
吹中 里嘉子



大山研修を終えて

大山研修を終えてクラスの親睦を深めることができ、助け合うことの大切さをいっそう感じました。私たちの研修目的は「一人一人の個性や能力を活かし、先導力や団結力を高める。」という目標でした。研修全体を通して私たちのクラスは、この目標を達成できるように取り組めたと思います。

特にそう思った研修中の出来事はカヌーです。コツを掴んだ人が「こうすれば上手く漕げるよ。」などと声を掛け合っていたり、コースから少し外れてしまった人がいたら、その人のもとへ行き、手を差し伸べて一緒に元のコースに戻ったり、疲れていたなら互いに声を掛け合う光景が沢山見られました。このようにカヌーをしたことがある人や、したことがない人もいる中で、どのように取り組めば全員が安全に楽しむことが出

52回生(1年生)
角田 佑輝



来るかを考えて、自分なりに行動することができていました。

そして私はこの研修を通して、常に周りに目を配り今何が必要とされており、それを実行するためにはどのように行動すればよいかを考えながら行うことが、今の自分、そして看護学生として必要だと学ぶことが出来ました。この大山研修で学んだことを念頭において生活していき、これからの学生生活に活かしていきたいです。



学校祭を終えて



学校祭実行委員長
橋本 真之介

11月2日、3日に学校祭を開催しました。今回のテーマは「繋ぐ」として、各企画に向けて、今年の5月から活動を始めました。各ブースリーダーが進行状況などを報告しあい情報共有を行うためのリーダー会を定期的で開催し、その際に各ブースでの問題点や要望などを実現可能な形にしていくために何度も話し合いを重ねました。この話し合いを重ねることで本番では学生も来場者の方も楽しんでもらえる企画を計画・実施できたと思います。

学校祭1日目の学術集会では、各学年の学びを「コミュニケーションについて」という3学年が共通したテーマのもと発表しました。同じテーマでも学年毎に着目点や考え方は異なるものであり、新しい発見や学びを得ることができました。また、1年生の発表からは自分達が1年生の時を思い出すきっかけになり、自らの初心を思い出す貴重な時間となりました。午後からは翌日の準備を行ったが全学年が協力することにより予定通りに進めることができました。

学校祭2日目はこれまで企画してきた催し物を実施しました。当日は総勢179名の方が来場してくださり、学校祭は大盛りでした。私は、実行委員長として各ブースを見て回っていましたが、どのブースもこれまでの準備や練習の成果を発揮し、来場者も、対応している学生もみんなが笑顔で過ごしていたのが印象的でした。今回の学校祭は、学生にとって来場者の方と共に過ごす貴重な時間となったと思います。

学校祭が無事に終わり、片付ける際も学生全員が積極的に動く事で予定していた時刻よりも早く終えることもできました。今回の学校祭を企画・運営してみて一番強く思うのは、全ての学生や学校の先生の協力があるからこそ、成功させることができたということです。

最後に協力していただいた全ての方に感謝を伝えたいと思います。ありがとうございました。



米子医療センター 互助会



当院は、毎年12月に互助会主催による病院の忘年会を開催しています。今年は、12月7日(金)、ANAクラウンプラザホテル米子で職員167名が参加し、19時から22時まで音楽の演奏やダンスなどの余興もあり、盛大に行われました。



長谷川院長
登場!



米子医療センター
バンドでノリノリ♪



みなさん大笑い!
二人羽織



サイリウムを
持って、みんな
踊りました♪



今流行りの
ツッパリダンス!



無事お開きと
なりました

お知らせ

米子医療センター がんフォーラム

市民公開講座
参加無料

テーマ

消化器がんの 最新治療

日時 2019年

3/16(土)
13:00~15:00

場所 米子医療連携センター
1F くずもホール
(米子医療センター横)

開演 あいさつ 米子医療センター 院長 長谷川 純一

I. 講演 消化管がんの内視鏡治療 米子医療センター 診療部長 原田 賢一

II. 講演 胃がんの最新治療 米子医療センター 消化器外科医長 谷口 健次郎

III. 講演 大腸がんの最新治療 米子医療センター 消化器外科医長 大谷 裕

IV. 講演 寄り添いとともに歩む認定看護師 ~がん診断時から、患者・家族の伴走役となる~

米子医療センター 緩和ケア認定看護師 大林 香織

終演 あいさつ 米子医療センター 副院長 杉谷 篤



米子医療センター
●米子医療連携センター



質疑応答(各講演に含む)



事前にお寄せいただいた
質問に講演者が返答します。

▶お問い合わせ先:米子医療センター 地域医療連携室
TEL.0859-37-3930 FAX.0859-37-3931

主催(独)国立病院機構 米子医療センター

後援 鳥取県・米子市・鳥取県医師会
鳥取県看護協会・鳥取県西部医師会



診療科	曜日	月	火	水	木	金	備考
総合診療科		山根 一和	山根 一和	池内 智行	土橋 優子	山根 一和	
消化器内科		香田 正晴	原田 賢一	松岡 宏至	香田 正晴	松岡 宏至	
		安井 翔				原田 賢一	
専門外来				大山 賢治			肝臓
	呼吸器内科	富田 桂公	富田 桂公	唐下 泰一	池内 智行	唐下 泰一	
専門外来				交替医(肺がん外来)	富田 桂公		
	血液・腫瘍内科	但馬 史人		但馬 史人	但馬 史人	但馬 史人	完全予約制
専門外来					足立 康二		
				フォローアップ			[診療時間] 13時~14時 予約制
循環器内科			福木 昌治	福木 昌治		福木 昌治	
専門外来		ペースメーカー					[診療時間] 13時30分~ 予約制
糖尿病・代謝内科		木村 真理 (第4週除く)	土橋 優子	木村 真理	木村 真理	伊藤 祐一	
緩和ケア内科		松波 馨士	松波 馨士	松波 馨士	松波 馨士	松波 馨士	※新患は要予約
感染症内科				※山根 一和			※水曜日:トラベルクリニック・予防接種 事前予約のみ
腎臓内科				江川 雅博			
神経内科						守安正太郎	
健診		須田多香子	唐下 泰一	須田多香子	杉谷 篤	長谷川純一	事前予約のみ ※乳がん・子宮がん検診を除く
小児科	午前	林原 博	佐々木佳裕	坪内 祥子	林原 博	佐々木佳裕	
	午後	佐々木佳裕	坪内 祥子		坪内 祥子	坪内 祥子	[診療時間] 15時~17時
専門外来			佐々木佳裕 [アレルギー]	交替医 [乳児検診] [予防接種]	[特殊検査]	林原 博 [アレルギー] [腎・膠原病]	[診療時間] 午後~ ※詳細な時間はお問い合わせ ください
消化器外科		奈賀 卓司	杉谷 篤	大谷 裕	谷口健次郎	山本 修	
	専門外来		杉谷 篤	杉谷 篤			腎移植・脾移植
専門外来				ストーマ			第1.3週のみ 予約制 [診療時間] 13時~16時
胸部・乳腺外科		万木 洋平	鈴木 喜雅	万木 洋平		万木 洋平	
専門外来		リンパ浮腫	リンパ浮腫	リンパ浮腫	リンパ浮腫	リンパ浮腫 フットケア	予約制 ※リンパ浮腫の新患は火・金曜日のみ
整形外科		南崎 剛	遠藤 宏治	大槻 亮二	南崎 剛	吉川 尚秀	
		遠藤 宏治	吉川 尚秀		大槻 亮二		
専門外来		南崎 剛	遠藤 宏治		南崎 剛		骨軟部腫瘍
専門外来			吉川 尚秀		大槻 亮二		火曜日:リウマチ 木曜日:関節
泌尿器科		高橋 千寛		眞砂 俊彦	高橋 千寛	眞砂 俊彦	
放射線科		杉原 修司	杉原 修司	杉原 修司	杉原 修司	杉原 修司	
	専門外来		内田 伸恵				放射線治療(完全予約制)
歯科口腔外科		中林 基	中林 基	中林 基		※	※金曜日は要相談
耳鼻咽喉科		山本 祐子		山本 祐子		山本 祐子	
眼科			春木 智子				
婦人科						交替医	

時間 (初診受付) 8時30分~11時 (再診受付) 8時30分~11時 健康診断受付/毎週火・水・金 予約制

診療情報提供書:FAXによる紹介状の送信先

地域医療連携室直通FAX 0859-37-3931

地域医療連携室直通TEL 0859-37-3930